

# 看護職員の地震災害に対する危機管理の意識調査

4階東病棟 小田優子 高倉恵里奈 池邊雅貴 草場美絵 内田ひろみ

## 【目的】

平成28年4月に発生した熊本地震の際に、当病棟で勤務していた看護師が対応に迷い、また、緊急連絡網による伝達が円滑にできなかったなどの問題に直面した。当院スタッフの災害看護に対する知識や準備状況を、アンケート調査を行うことで現状把握し、今後の課題を明確とすることを目的とした。

## 【方法】

対象：朝倉医師会病院看護職員226名（看護部管理、研究スタッフを除く）

期間：平成28年11月1日～11月7日

調査方法：アンケート用紙を作成し対象看護師へ配布し、回収後分析する。

## 【結果】

対象人数226名中、有効回答数186名で回答率（81.6%）であった。救護区分の意味を知っている（81.5%）今年の避難訓練への参加者数（30.6%）防災計画書の場所を知っている（26.9%）防災計画書を読んだことがある（23.7%）災害時の患者避難場所を知っている（53.8%）避難経路を知っている（63.4%）連絡網の準備できている（80.1%）備蓄庫の場所を知っている（40.3%）コンセントの色分けの意味を知っている（75.3%）ネームプレートを救護区分に応じて色分けしている（27.4%）病棟内で使用できる酸素ボンベの数（39.5%）今後災害への研修があれば参加する（79.6%）災害時病院に来れる（72.6%）来れない理由として家族が心配（55.3%）と最も高く次に家が遠いが（27.7%）その他（17.0%）であった。

## 【考察】

災害研修への参加意欲は高く、災害時は病院に来る意思があるスタッフが多いという結果になった。また防災意識に関する質問でも比較的意欲的であり、これは熊本地震に対する危機感が強く、不安を感じているということの現れではないだろうか。しかし、避難経路や避難場所、計画書の存在を知らないなど準備状況としては不十分である。

院内の防災対策として、年数回の避難訓練、防災計画書の作成、連絡網の配備、備蓄庫の設置などが準備されている。しかし、アンケート結果からは、避難訓練への参加率が低く、計画書や備蓄庫の場所を知らないなど、それらの体制を十分に活用できていない現状が分かった。特に防災計画書の場所を知らない、読んだことがないというスタッフが多い。

これらの結果から災害対策の内容を周知するための情報提供と、個々人が危機感を持って災害対策に臨むことが必要なことがわかった。竹内らは“災害はいつでも起こりうるという認識に立ち、病院職員全体で知識・技術を共有し、災害対策に取り組むことが重要である。”と述べている。病院として災害へ備えているが、十分に周知されていないため、各スタッフが防災対策について情報共有し、同じ知識・認識をもって全員が一定以上の水準で災害看護に対応できるように、準備できる体制づくりが必要だと考える。